

市政ニュース

中川 茂副市長が任期満了で退任 新副市長に齋藤哲也さんが就任

平成21年5月に就任した中川 茂副市長が、5月15日で任期満了となり、退任しました。

中川副市長は、市長の補佐役として、また、市長と職員とのパイプ役として、市の重要事項に関する調整に当たり、円滑な市政運営に大きく貢献いただきました。

新しい副市長には、5月14日の市議会臨時会の議決を経て、16日付けで、齋藤哲也さん(前豊岡市政策調整部長)が就任しました。

齋藤副市長は、真野 毅副市長と共に中貝市長を補佐し、市政の推進に努めます。



▲中川副市長退任セレモニーで花束を贈呈



▲齋藤哲也

【副市長】(任期4年・敬称略)

新たに選任または任命された委員

(敬称略)

5月14日の市議会臨時会での議決・選挙を経て、監査委員、教育委員会委員、選挙管

理委員会委員が決まりました。新しい委員は、次のとおりです。

【監査委員】(任期4年)



▲多根 徹

【教育委員会委員】(任期4年)



▲井垣美津子



▲石高雅信

【選挙管理委員会委員】(任期4年)



▲浮田一雄



▲川上康則



▲正見英子

株式会社エフエムたじまと災害等における緊急放送に関する協定を締結

4月23日、市と株式会社エフエムたじまは、災害等における緊急放送に関する協定を締結しました。

災害時、コミュニティFMによる緊急放送を通じて、災害等に関する情報を市民に提

供することで、被害の軽減を図り、市民生活の安全確保に寄与します。

調印式では、中貝市長と株式会社エフエムたじま代表取締役の大岡夫美子さんが協定書に調印しました。

主な市政の動き



▲畠中隆夫

【4月】

13日・出石歴史文化交流館竣工披露目会

16日・シアトル市ウイットマン中学校国際交流体験学習使節団来訪(21日)

21日・豊岡市長選挙投票日

24日・豊岡農業スクール開校

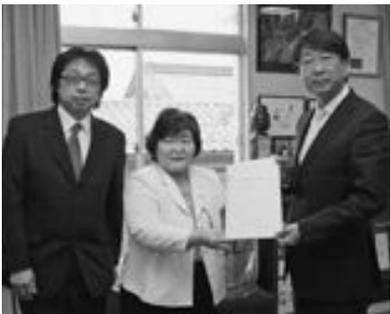
淡路島の家屋被害調査に職員派遣(25日、30日)

5月1日、5月7～8日)

【5月】

1日・豊岡市長初登庁

11日・水道まつり



▲(左から)エフエムたじまの西村取締役と大岡代表取締役、中貝市長

豊岡市の環境農業の取組みが認められました

地球環境大賞「審査委員特別賞」の受賞式に出席

4月22日、第22回「地球環境大賞」(フジサンケイグループ主催)の授賞式が東京の明治記念館で開催されました。

本市は、審査委員特別賞を受賞し、中貝市長が表彰状とトロフィーを受け取りました。

〔豊岡市の受賞理由要旨〕

安全・安心なコメと多様な

応援します! 夢への挑戦

JFAのプロジェクト「夢の教室」の調印 / 第一回「夢の教室」実施



▲調印式でJFA大仁邦彌会長と中貝市長が握手

4月26日、日本サッカー協会(JFA)と豊岡市は、中筋小学校で、JFAこころのプロジェクト「夢の教室」の協定を締結しました。

JFAと自治体との協定締結は、兵庫県内では初めての

生きものを育む「コウノトリ育む農法」に取り組み、農業技術確立と農産物の安全・安心ブランド化も推進している。農業者には経済的な利益や環境保全への意欲、誇りをもたらしめている。消費者は、消費を通じた生物多様性保全への貢献に共感し購入している。

ことです。

このプロジェクトでは、日本を代表するスポーツ選手が、市内小学校の教壇(5年生対象)に立ち、フェアプレー精神や夢を持つことのすばらしさ、それに向かって努力することや、仲間と協力することの大切さを子どもたちに伝えます。



▲夢先生の永島昭浩さんが指導

授業の前半は、体育館でゲームをして永島さんとの交流を深め、後半は教室に移り、永島さんが自らの夢を語り、夢を持つことのすばらしさを伝えました。



▲審査委員長の有馬朗人と武蔵学園園長から表彰状を受け取る中貝市長

中貝市長の徒然日記 67

村の暮らし

5月、連休。いつもの時がやってきました。畑仕事です。毎年、この時期にだけ、流行病にでもかかったかのように、畑にトウモロコシの種をまき、トマト、ピーマンの苗を植えるのです。

村の目抜き通りで、日頃見慣れぬ市長が見慣れぬ腰つきで畑を打っていると、当然、村人の目を引きます。

「今年もその時期になりましたか。うちも植えんならんなあ」宗ちゃん、無理せん方がええで」

欧米化が進む私の村では、ファーストネームで呼び合うのです。

「上手だで、上手、上手!」こりやもう、ちゃかしです。芽が出てしばらくすると、「肥料を欲しげな顔をしような」と追肥のアドバイスです。日頃、外で市長だと威張っている、うねはくねくねと曲がり、表面はでこぼここと波打ち、村の中ではただのかい性なしに過ぎません。それに

比べ、どこの村にも「あの人」が植えた田んぼは美しい「あの人」が作るネギはとりわけうまい」と評判の人が、必ずと言っていいほどいます。以前近所で火事があった際には、焼け残った柱組の上に乗って解体作業をする隣人を見て、感嘆しました。私にはとてもできない芸当でした。不思議に、私はこの村の一員なのだと、そのとき感じました。

NHK大河ドラマ「八重の桜」で、主人公の第三郎が江戸に向かうシーンがありました。三郎は、日本を支えるために、ではなく、会津を支える人材となるために江戸に向かうのだと、ふと思いました。時代は、黒船に象徴される外国から独立を守る体制と人材を必要とし始めていました。以来ずっと、私たちの国は「日本を支える人材を」と叫び続けてきました。それはとても大切な視点です。が、同時に、「私はいずれ故郷に帰り、故郷を支えるのだ」という人材を育てることも大切なのだ、村の暮らしを感じながら、私は強くそう思うのです。